

Sky Seminar



多様性を意識したスキル形成 (diversity)

人は組織の中でどのように成長していくのか。私は、仕事に必要な技能や知識の形成プロセスに関心がある。長年、国内や海外の組織で様々な文化、国籍や経歴を持った人材の発掘や育成に携わってきた。その中で日本人が優れていると思う点は、精緻な仕事、時間管理能力(時間や期日を守るという文化)、チームワーク能力や周りへの配慮などが挙げられる。一方、日本人が弱いと思う点は、自己表現力、信頼関係を築くコミュニケーション力さらに将来に役立つ幅広い人脈やネットワーク作りなどである。

私達を取り巻く環境は絶え間なく変化

している。この不確実な時代にどのようなことを意識し、経験や技能を積み上げていけばよいのだろうか。私は多様性が鍵であると考え、多様性(Diversity)の概念はアメリカでマイノリティの人々の地位を向上する運動から始まり、その後、多様性への取り組みが企業にとってメリットと考えられるようになった。今では企業戦略の環として様々な取り組みが進められている。

企業の国際化が進み、労働力不足が加速する日本においても、多様な人材を雇用し活用する企業努力が求められている。しかし、多様性に関する認識は曖昧であり、取り組みもまた十分とはいえない。

個人の働き方、生き方や価値観も多様性を増し、個人のスキル形成においても、多様性への意識を持つことが求められている。予測不可能な変化や問題に対しては従来のアプローチ的なアプローチでは不十分なことが多い。そのために日頃から、自分の関心事以外にも積極的に目を向け、一見遠回りとも思える非効率な体験を楽しむことが効果的である。

私は学生に、積極的に途上国を訪れることを勧めている。生活インフラが整備され物が溢れた便利な日本の生活から離れ、途上国に身を置くことで、得られることが多い目標を達成するために試行錯誤し、多様なプロセスを体験することで、新しい発見や柔軟な発想力を高めることが可能だ。問題解決力や創造的思考力なども培われるのである。

関西学院大学は、国連ポフンティア計画(UNV)と提携を結び、学生を途上国に送り、フィールドで約半年間、国際協力活動に従事する活動を続けている。活動を終えて帰国した学生を見ると、大きく成長した姿がまぶしい。学生時代にこのような体験をすることは、卒業後の長いキャリアを築く強固な基盤となる。

日本に住んでいるから海外のことに對して無関心でよい時代ではない。国際社会の中であらゆる人達と協力し、信頼関係を築き、強いリーダーシップを発揮できるような日本人が増えることを願う。今、組織も個人も多様性への認識を深めることが求められている。

小西 尚実

関西学院大学
総合政策学部准教授

こにし、なおみ

専門は人材育成、能力開発、国際人事政策
神戸学院大学英文科卒。京都大学大学院経済学研究科博士前期課程修了、ロンドン、クイーンズ大学、エドワーズ大学、ケンブリッジ大学、外務省人事課を経て、アジア開発銀行、三菱物産に赴任。予備人事局長に就任。その後、教育訓練に携わり、その後、総務補佐官を務める。2007年に帰国後、関西学院大学総合政策学部官制教授を経て、2009年より現職。



西宮上ヶ原キャンパス
〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町1番155号
神学部 文学部 社会学部 法学部 経済学部 商学部 人間福祉学部 国際学部(2010年4月開設)

西宮聖和キャンパス
〒662-0827 兵庫県西宮市岡田山7番54号
教育学部

神戸三田キャンパス(KSC)
〒669-1337 兵庫県三田市学園2丁目1番地
総合政策学部 理工学部